

1. 教育の責任

「専門知識と高度な技術を習得し、歯・口腔の健康を通じ社会に貢献できる人材育成が可能な教育課程の編成」という本学科のカリキュラムポリシーを踏まえ、かつ「歯科疾患の予防と口腔保健の向上に貢献できる能力」「歯科衛生に関する知識と高度な技術の習得と多様な人間関係に必須なコミュニケーション能力」を身に着けることができるよう、医療人としての使命感を持ち、対象者の口腔保健のニーズに対応できる能力を養うことを目指している。

2. 教育の理念

「実社会に則した豊かな教養に基づく実務教育を通じて、学生一人ひとりが自らの目的を見つけ、その目的に向けての目標を定めそれを実現させる力を育成する」という本学の理念に基づき、社会人基礎力を身につけ、広く社会貢献ができる人材を輩出することを目的とし、歯科衛生学科で学ぶ科目の繋がりを意識し、幅広い理解を身につけさせたいと考えている。

3. 教育の方法

本学科の「歯科疾患の予防と口腔保健の向上に貢献できる能力をもつ」「高齢化社会到来に伴い、求められる歯科・口腔保健のニーズに対応できる能力を持ち、医療・保健・福祉等の医療関連職種と連携し、協力・協働関係が構築できる」「歯科衛生に関する知識と高度な技術の習得と、多様な人間関係に必須なコミュニケーション能力をもつ」「歯科衛生士としての職業倫理観を保持し、自らの責任で行動できる」というディプロマ・ポリシーと関連して、学内で学んだ基礎的知識・技術をもとに、臨床実習・臨地実習を通じて現場に強い歯科衛生士を育成することを目指す。

現在担当する科目は、「口腔保健指導論」「歯科保健指導Ⅰ」「歯科保健指導Ⅱ」「歯科保健指導Ⅲ」「ゼミナール」「基礎実習」「臨床臨地実習Ⅰ」「臨床臨地実習Ⅱ」「地域歯科保健実習Ⅰ」「地域歯科保健実習Ⅱ」および医療事務学科の「医学概論」である。特に臨床実習・臨地実習では、患者および地域住民等と接するため、社会人基礎力が重要であることを繰り返し教示している。

「歯科保健指導Ⅰ～Ⅲ」では、「口腔保健指導論」で学んだ基礎知識をもとに、個人及び集団に対し、歯科保健行動に変容させる支援の方法を学ぶ。歯科保健指導は、特に対人コミュニケーションが必要とされるため、他者へわかりやすい説明ができるよう相互実習やグループ学習をとり入れ授業をすすめている。

「口腔保健指導論」「医学概論」の講義形式の授業では、知識を確かなものとするため、記述式のプリントを配布し学習効果を重要視している。その他、普段から常に話しやすい雰囲気を作るとともに、授業中に実施する小テストに質問記載欄を設けるなど、教員と学生間の関係性の構築を心掛けている。

4. 教育の成果

授業実践の工夫：教科書を必ず確認するよう授業内でも促し、不足部分は資料を配布している。学修内容の振り返りができるよう、毎回小テストを実施している。

学修成果達成のための工夫：授業内での声をひろい、すぐに対応をおこなうとともに授業中に実施する小テストに質問記載欄を設け、次回授業時に振り返りを取り入れた。

授業アンケートによる評価：授業プリントがわかりやすい、教員に質問しやすい、実習時にすぐに指導してくれるとの自由記述があった。

5. 改善への努力と今後の目標

歯科衛生士三大業務である歯科保健指導は、対象者が自ら考え問題解決に導き、生活行動を歯科保健行動へと変容を促し維持するための支援・援助である。歯・口腔の健康だけでなく、全身の健康・QOLの向上を目指し、全人的包括的なケアを提供できる歯科保健指導実践能力を身につけさせたいと考えている。自身の臨床研修から、より具体的な授業運営ができるよう研鑽を積み、深い理解と歯科衛生業務への興味関心を持てるよう努力していく。また最終目標である歯科衛生士国家試験合格を目指し、学生の学習状況を分析確認し指導をおこなう。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前短期大学 所属：歯科衛生学科 名前：小澤 純子 作成日：2024年12月25日

【添付資料】

なし